

2023年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>○基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成し、社会の変化に主体的に対応するための学びに向かう力、確かな学力の定着を図る。</p> <p>○自ら課題を設定し、柔軟に考え、豊かに表現する問題解決的な学習と児童相互の学び合いを重視した学習を設定し、児童の主体的な学びの力を育成する。</p> <p>○児童の学力向上を図るために、2学期制により授業時数を確保する。</p> <p>○ICTを活用した教育を推進する。</p> <p>○地域の教材化や外部人材の活用を積極的に推進し、体験的な教育活動を充実させる。</p>

授業改善の重点
<p>○校内研究として取り組む中で、国語の指導力を高めるとともに、指導方法を充実させ、児童の書く力の育成を図る。</p> <p>○ICTを活用して表現することを通して、自分の思いや考えを他者に伝える力の育成を図る。</p> <p>○それぞれの学年で習得すべき基礎的・基本的な学習内容の習得を確実に実施する。また、全教科で問題解決・課題解決の手法を取り入れ、学び合いの授業で思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>○教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図るとともに、「特別の教科 道徳」においては、答えが一つではない道徳的な課題を児童が自身の問題と捉える「考える道徳」「議論する道徳」の授業を行う。</p> <p>○プログラミング学習を体系的に実施する。中学年からローマ字タイピング、スクラッチの汎用化を実施する。また、児童及び教員のICT機器の活用スキルを向上させる。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<p>○教材文を丁寧に読み込み、正しく文意を読みとった上で、根拠をもって自身の考えを書いて伝え合う授業を展開することで、児童の思考力や表現力を伸ばす。</p> <p>○音読・漢字テストなど、日常の練習を大事にして、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。</p> <p>○学びを深め、人間関係を深めるために、授業の中に二人組やグループでの話し合いを取り入れる。話し合いのねらいを明確にして、交流し合うことで、伝え合う力を伸ばす。</p>	<p>○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解できるように学習活動を展開し、表したい表現をするために必要な技能を身に付けさせる。</p> <p>○音楽に対する感性を働かせる学習過程を充実させ、思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりする能力を高める。</p> <p>○協働して音楽活動する楽しさを味わわせ、日常の生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。</p>	<p>○地域の環境を生かした教材開発と、多様な考えを認め合えるグループ学習を各学年に設定する。</p> <p>○図書資料や情報機器を活用した情報収集・整理の手段として学習カードを活用する。</p> <p>○ICT機器を活用した学習を推進し、児童の情報活用能力やプレゼンテーション能力の基礎を養う。</p> <p>○他教科等との関連を図りカリキュラム・マネジメントの核となる学習として位置付ける。</p> <p>○自己の課題を設定し、課題解決に向かって、さまざまな方法で情報収集・整理をし、多様な発表の仕方やまとめ方を経験させる。</p>	<p>○「考える道徳」「議論する道徳」を行い、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、よりよく生きていくための資質・能力を育てる。</p> <p>ノートやワークシートを活用し、児童の変容を見取る。</p> <p>○道徳授業地区公開講座では、家庭・地域との連携を図り、豊かな体験を通して、児童の内面に根差した道徳性を育むことを目指す。</p> <p>○教科書を主たる教材として、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目指す。</p>
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動の指導の重点
	<p>○身近に感じられる具体例を示すことで、社会の仕組みや社会的課題に興味関心をもって学習に取り組ませる。</p> <p>○社会的事象が具体的に捉えられる資料を示し、調べたり話し合ったりさせることで考えが深まるようにする。</p> <p>○総合的な学習の時間をはじめとする各教科等との関連を図り、資料活用の能力や社会的な思考力・判断力を身に付けさせる。</p>	<p>○多様な表現の中で、自分の思いやイメージに合わせて工夫するなど、主体的に表現を追究して模索する意欲を高められるようにする。</p> <p>○既習事項の確認を繰り返し行い、基礎的・基本的な表現技法の定着を図る。</p> <p>○様々な段階での鑑賞の活動を通して、友達の作品の工夫や発想の面白さを見付けられるようにする。</p>	<p>○学級活動では、集団の一員としての役割を自覚し、自らの生活を向上させようとする意欲と実践的な態度を養う。キャリア・パスポートの作成を通して児童一人一人のキャリアの形成と自己実現を図る。</p> <p>○児童会活動、クラブ活動では、自発的・自治的な望ましい集団活動を基本とし、児童一人一人の個性や能力を伸長する。</p> <p>○学校行事では、内容ごとにねらいを重点化し、各行事間や教科との関連をもち、内容の精選と充実を図り、児童の学校・学級集団への所属意識や連帯感を高める。</p>	<p>○全学年、ALTの授業を通して、英語への興味関心を高める。</p> <p>○基本的な話す・聞く能力を習得させるために、ALTと児童が会話練習をする機会を多く設け、その経験をもとに、児童同士の会話練習やグループ内での活動を盛んに行う。</p> <p>○高学年は書く活動を取り入れることで、アルファベットとスペルの繋がりを意識させ、定着を図る。</p>
	算数科	家庭科		
	<p>○東京ベーシックドリルの反復的な活用を通して基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。</p> <p>○文章問題を読解する力と問題解決能力を向上させる。そのためにカリキュラム・マネジメントの視点に立ち、国語科をはじめとした各教科等との関連を図る。</p> <p>○デジタル教科書などのICT機器を活用し、視覚による指導の効率化を図る。</p> <p>○算数ドリル学習navimaを活用し個別最適な学びを実現させ、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。</p>	<p>○児童同士の学び合いを充実させ、家庭科における基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。</p> <p>○日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、問題解決的な学習をする中で、家庭の一員として生活をよりよくしていこうとする態度の育成を図る。</p> <p>○調理実習や裁縫の授業では、外部人材との連携を図り、安全に学習を進められるようにする。</p>		
理科	体育科			
<p>○問題解決の過程に沿った学習に取り組ませる。</p> <p>○根拠に基づいた予想や仮説を発想させ、見通しをもった観察・実験を行わせる。</p> <p>○考察を行う際に話し合いの場を設定し、対話的な学びを行うことで、深い学びにつなげる。</p> <p>○観察・実験の機会を確実に設定し、基本的な観察の視点や器具の扱いを習得させる。</p>	<p>○体力調査の結果に基づいた授業づくりをする。特に、低学年は、多様な基礎動作を経験させる。全学年、固定遊具を使った様々な運動を多く経験させる。</p> <p>○学習カードや体育ノートを活用して、児童一人一人を多面的に評価する。</p> <p>○運動の楽しさや個に応じた技能ができる喜びを味わわせる授業づくりや場の設定をする。</p>			
生活科	外国語科(5・6年生)			
<p>○カリキュラム・マネジメントの視点で、各教科等との関連を図る。国語科で身に付けた資質・能力や図工科で身に付けた技能を生活科の表現活動に生かしたり、生活科での体験活動を国語科や図工科の題材等にしたりする。</p> <p>○外部人材・環境を積極的に活用する。</p>	<p>○ALTやMEPS職員との連携を取りながら、授業を計画・推進していく。</p> <p>○体験的な活動を多く取り入れ、楽しみながら外国語に触れられるようにする。</p> <p>○モジュールの時間を活用してリスニングやライティングに継続的に取り組み、習得を図る。</p>			

ICT機器の活用	振り返りの設定	価値ある対話の共有
<p>○各学年での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の実態に応じて、授業内で児童一人一人がchromebookを活用できるような学習計画を立てる。 調べ学習、スライドやドキュメントを使ったまとめ、スプレッドシートでの意見交流等、活用の幅を広げていく。 <p>○プログラミング学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学年からスクラッチに親しませ、高学年では、問題解決に向けたプログラミング作成に取り組ませる。 <p>○デジタル教科書・拡大機器</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数、理科、社会においてデジタル教科書を導入し活用することで、児童の学習理解を促進する。 拡大機器を効果的に用い、児童の考えを共有する。 <p>○家庭学習での活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ドリル学習navimaを家庭学習で活用し、算数を中心に学力向上を図る。 	<p>○スタンダードの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上委員会で授業等について定めた「学習」「生活」「教員用」スタンダードを全教員で共通理解し実践する。 <p>○授業の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のおおまかな流れ(「めあて」の提示、「振り返り」を行う等)について全校で統一することで、児童が見通しをもって学習に臨むことができるようにする。 <p>○振り返りの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校で統一して、各教科で学習の振り返りをする時間を設定する。振り返りを行うことで、学びの成果を実感させ、学んだことや問題意識等を次時の学びにつなげられるようにする。 	<p>○校内研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の学校教育目標である「心豊かにたくましく、伝え合い、認め合い、学び合う子供の育成」を目指して、今年度の研究主題である「多様な考えをもち、すすんで伝え合う児童の育成」を図っていく。 <p>○グループ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、ペアやグループで話し合ったり、協力して課題を行ったりする活動を積極的に取り入れ、児童同士が対話し、学び合う機会を多く設定する。 <p>○発言の価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動のねらいや指導事項に沿った児童の発言等の価値付けを意識的に行う授業づくりをする。友達と考えを共有し、自分の考えを広げさせる活動を取り入れた授業づくりをする。